

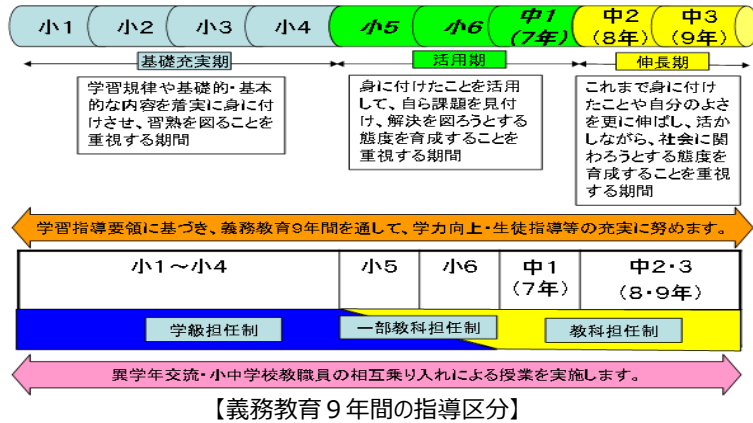
# 小中一貫教育コラム [新潟県] 三条市教育委員会 「小中一貫教育で描く義務教育9年間のグランドデザイン」

## 「三条市小中一貫教育基本方針」に基づく各学園のグランドデザイン

### 未来を拓き、力強く生きるための「確かな学力」「豊かな心・個性」「健やかな身体」をもった児童生徒の育成

三条市は、学校教育のさまざまな課題を解決するためには、学力向上、生徒指導の充実、小中学校教職員の協働の視点から、小学校と中学校がより連携しやすい環境をつくることが望ましいと考え、小中一貫教育を導入することとした。平成20年度に「三条市小中一貫教育基本方針」を策定し、この方針の中で、上記の目指す児童生徒像を示した。また、基本方針には、その他に、学習指導要領に基づく9年間の連続した教育課程の編成、発達段階の指導区分、小中一貫教育カリキュラム、小中学校の児童生徒や教職員の交流等について示している。

小中一貫教育を推進する上で大切なことは、各学園の児童生徒の実態や地域の状況を踏まえて、育てたい児童生徒像を描き、小中の教職員が一丸となって、目指す児童生徒を育成しようとするところである。



そのために必要になってくるのが、各学園のグランドデザインである。グランドデザインでは、目指す児童生徒像を各学園で描くが、その際に留意したいのが発達段階だ。9年間という長いスパンの中で、段階的に児童生徒を育成していくことが大切である。「三条市小中一貫教育基本方針」では、義務教育の指導区分を「基礎充実期」「活用期」「伸長期」として分け、発達段階で重視することを図のように示している。

各学園では、基本方針や指導区分に基づきながらグランドデザインを作成している。

## 小中一貫教育のグランドデザインを描くために

### 1 各期における目指す児童生徒像を描く ～一ノ木戸ポプラ学園のグランドデザイン～

三条市では、平成29年度に学園制を導入した。それぞれの中学校区を小中一貫教育校の学園とし、学園長を置いた。学園長のリーダーシップの下で、小中一貫教育を推進していく体制になっている。

右下の表は、一ノ木戸ポプラ学園のグランドデザインに描かれたそれぞれの期における目指す児童生徒の姿である。一ノ木戸ポプラ学園は、一体型の学園で、一ノ木戸小学校（児童数626名）と第二中学校（生徒数305名）で構成される小中一貫教育校である。

基本方針の「確かな学力」「豊かな心・個性」「健やかな身体」に合わせ、「知・徳・体」における各指導区分における児童生徒の姿が描かれている。これにより、小学校の低・中学年の担任も高学年や中学校の担任もそれぞれ目の前の児童生徒にどのような力を付けたいかが明確になる。

付けたい力は学園の児童生徒の実態に応じて描かれる。例えば、「まなび」においては、「考えること」や「伝えること」などに重点を置いた構成になっている。各教科・領域で、この重点を意識しながら授業を改善する。

また、一ノ木戸ポプラ学園は、「ちいき」における姿も描いている。令和2年度からコミュニティ・スクールを導入した。この姿は、学校運営協議会の委員との話し合いの中で描かれたものであり、地域と協働して児童生徒を育成しようとする学園の体制の表れとも言える。



【一ノ木戸ポプラ学園 ※左が中学校棟 右が小学校棟】

	まなび	こころ	からだ	ちいき
目指す子供	自ら課題を見付け、ともに考え解決していくことで、自分の考えを深め、広げる子供	自他のよさを尊重し、明るく前向きに生きようとする子供	心身の健康を目指し、自らの生活を改善し続けていくことができる子供	地域のよさが分かり、地域を誇りに思い、地域に貢献する子供
伸長期 中2・3年	主体的に学び、考えを理論的にまとめ、発信する子供	自他のよいところを見つめ直し、さらに伸びようとする子供	自らのふさわしい生活リズムを考え、つくり出せる子供	地域のよさが分かり、地域のひとたちとともに活動する子供
活用期 小5～中1年	意欲的に学び、考えを的確にまとめ、伝える子供	仲間によさに気づき、自己を見つめ自他を尊重できる子供	規則正しく生活することのよさに気づき、生活リズムを整えて生活できる子供	地域のよさに気づき、地域行事に参加する子供
基礎充実期 小1～4年	進んで学び、考えをしっかりとつ子供	よいこと、悪いことに気づき、ルールを守り友達と仲良くする子供	家庭とともに規則正しい生活リズムを身に付ける子供	地域のよさに触れ、地域を好きになる子供

【グランドデザインで示す各期における目指す子供の姿】

## 2 小中一貫教育カリキュラムを位置付ける ～大崎学園のグランドデザイン～



【大崎学園 ※義務教育学校】



【三条市小中一貫教育モデルカリキュラム】

三条市では、「小中一貫教育モデルカリキュラム」を作成している。これは、学習内容の9年間のつながりを大切にしている。各教科等の単元や学習内容ごとに小学校低学年・中学年・高学年・中学校での学びのつながりが分かるようになっている。このモデルカリキュラムを各学園・学校に示している。

大崎学園は、これを基に大崎カリキュラムとして編成し、グランドデザインに位置付けている。大崎学園は、新潟県初の義務教育学校として、平成30年4月に開校した。前期課程を6年、後期課程を3年とする児童生徒数794名の学校である。学園では、グランドデザインとは別に『9年間のグロースアップデザイン』も作成し、9年間で育みたい資質・能力と各期における段階的な姿を示した。全ての教職員がカリキュラムを意識して教育活動を展開することを目指したグランドデザインとなっている。

9年間の学びをつなぐためには、授業において、このカリキュラムを意識することが重要になってくる。各学園・学校は、モデルカリキュラムを基に学園の特色に合わせたカリキュラムを編成し、毎年見直しをするようにしている。地域教材や活用した人材などを学園で共有したり、学園の児童生徒の実態に合わせた重点を設定したりして、学園の児童生徒の9年間の学びをつないでいる。

三条市内は連携型の小中一貫教育校も多くあり、小中の学校がカリキュラムでつながることは、特に重要である。

### 小中一貫教育とグランドデザイン

小中連携と小中一貫教育は何が違うのかと、市外から異動してきた教職員に尋ねられることがある。一番の違いは、学園のグランドデザインがあることだ。このグランドデザインがあることで、小学校・中学校・義務教育学校の教職員が、目指す児童生徒の姿の共通理解をし、同じベクトルで児童生徒を育てることができる。

2つの学園で紹介をさせていただいたように、発達段階をふまえ、各期における目指す児童生徒像を描いたり、小中一貫教育カリキュラムを位置付けたりと、異校種または各課程の教職員が心一つにし、よりどころとするものを明確に表したものが小中一貫教育で描く義務教育9年間のグランドデザインである。

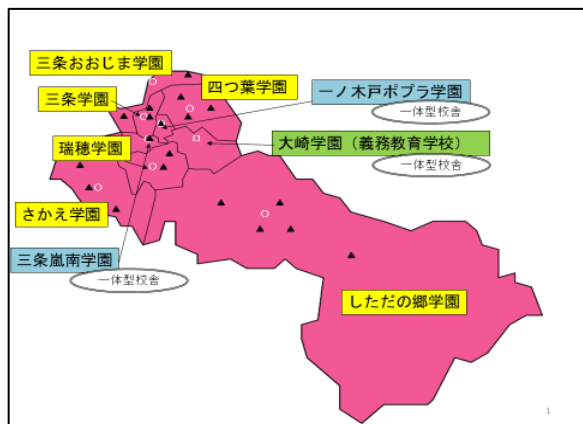
グランドデザインにおける児童生徒像を実現するために、小学校と中学校の教職員がグランドデザインを常に意識して教育活動を展開しなければならない。そのためには、小中の教職員が共通理解をする場が必要になってくる。三条市では、小中の教職員が集う小中一貫教育推進会議、協働で行う乗り入れ授業、小中の児童生徒の交流会の打合せなど教職員が話し合う場が計画的に設定されている。日程調整の難しさなどはあるが、小中一貫教育についての意識を継続していくために、小中の教職員のつながりをいかに強化するかが鍵になってくる。

今後も、三条市は小中一貫教育の更なる推進を目指し、グランドデザインを中心に据えた教育活動が展開されるように小中の教職員の意識へ働き掛け、学園内のつながりが強化されるための支援をしていきたい。

### (参考) 市町村概要

- 三条市は新潟県のほぼ中央に位置する。
- 平成17年に三条市・栄町・下田村が合併し、三条市となる。
- 人口 約9万5千人
- 小学校19校・中学校8校・義務教育学校1校 学園（中学校区）は9学園
- 三条市全体の児童数4,469名 生徒数2,313名 合計6,782名（令和3年5月1日現在）

【三条市の学園・学校の位置と名称】



小中一貫教育校	中学校	小学校
三条嵐南学園	第一中学校	嵐南小学校
一ノ木戸ボブラ学園	第二中学校	一ノ木戸小学校
三条学園	第三中学校	裏館小学校、上林小学校
四つ葉学園	第四中学校	井栗小学校、旭小学校、保内小学校
瑞穂学園	本成寺中学校	西鱈田小学校、月岡小学校
三条おおじま学園	大島中学校	大島小学校、須頃小学校
さかえ学園	栄中学校	栄中央小学校、栄北小学校、大面小学校
しただの郷学園	下田中学校	長沢小学校、笹岡小学校、大浦小学校、森町小学校、飯田小学校
大崎学園（義務教育学校）		